

# 名古屋港長期構想 (最終案)

## 概要版

令和8年3月  
名古屋港管理組合

# 基本理念

## 物流で日本をひっぱる価値創造港湾

名古屋港は、産業や生活を支え、日本の発展を物流でけん引する港として、社会的課題への対応をさらなる成長の機会と捉え、経済的価値と社会的価値が両立した新たな価値を創出し、持続的な発展を目指します



経済的価値：物流の効率化による輸送コスト削減、貿易拡大、産業集積、雇用創出など、経済的な発展に貢献する価値  
社会的価値：国民生活の安定、災害対応、環境・脱炭素への貢献、地域文化や交流の促進など、社会的な豊かさに貢献する価値

## 名古屋港長期構想について

### 策定の背景

近年、世界的な脱炭素化の推進や AI、IoT 等の情報通信技術の進展など、名古屋港を取り巻く環境は大きく変化しています。これらの変化に対応しつつ持続的な発展を実現するため、名古屋港の将来のビジョンとなる新たな長期構想を策定しました。

### 策定の想い

長期構想は、名古屋港に関わる人が名古屋港の将来に向かって行動するためのビジョンであるだけでなく、名古屋港に関わってほしい人々や関心をもってほしい人々に対するメッセージとするため、以下の考え方を重視しています。

- あらゆる人々が共感できるもの
- 長期的な視点で、あらゆる人々が望む名古屋港の姿
- 理想に終始せず、現実を踏まえた具体性を持った取組の方向性

### 位置づけ

- 概ね 20～30 年先の目指す将来像、それを実現するための施策の方向性を示すもの
- 名古屋港の開発、利用及び保全など、様々な主体の諸活動の指針として活用されることを期待するもの
- 概ね 10～15 年先を目標年次とした港湾整備のマスタープランである港湾計画や個別の具体計画につながるもの

### 目標年次

概ね 20～30 年先(2050 年頃)

## 名古屋港の現況

名古屋港は、これまで取扱貨物量の増加や船舶の大型化への対応など、時代の要請に的確に対応しながら成長し、主に物流を中心とした経済的価値を創出する場として、中部圏のものづくり産業や人々の生活を支える役割を果たしてきました。また、物流機能の充実により、産業の集積とその活性化を促しながら港湾エリアを拡大し、にぎわいや環境などの地域とのつながり、それらの活動の基盤となる防災対策を担うなど、名古屋港はあらゆる意味でこの地域に欠かせない存在となっています。

物流機能の充実



産業の集積



地域とのつながり



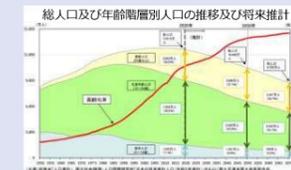
## 名古屋港を取り巻く環境の変化

### 世界経済の変化



国土審議会第 19 回計画部会 (国土交通省)

### 国内人口の減少、労働力不足



国土形成計画 関連データ集 (国土交通省)

### 日本中央回廊の形成、交流圏の拡大



超電導リニアの技術開発について (国土交通省)

### 訪日外国人の増加



PORT OF NAGOYA 2024-2025 (名古屋港管理組合)

### 情報通信技術の進展



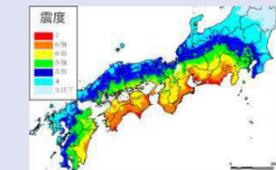
2030 年度に向けた総合物流施策大綱に関する検討会 (国土交通省)

### 脱炭素化の推進



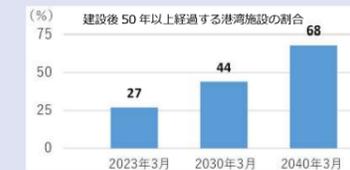
船舶の脱炭素化 (国土交通省)

### 災害等リスクの高まり



南海トラフ巨大地震モデル・被害想定手法検討会 (内閣府)

### 施設の更新需要の増加



インフラメンテナンス情報 (国土交通省)

### 持続可能な社会の実現に向けた意識の高まり



SDGs ポスター (国連広報センター)

## 名古屋港のポテンシャル

### 名古屋港の発展につながる背後圏の成長

- 日本中央回廊の効果を最大化する拠点
- 世界をリードする産業集積地
- 先進的な取組が進む新東名・新名神高速道路

### 先進的な取組を進めやすい環境

- 名古屋港関係者の連携
- 最先端の取組につながる施策の充実

### 次世代エネルギー拠点を形成しやすい環境

- 次世代エネルギーの需要拡大の可能性
- エネルギー関連の既存ストックの充実

### 更なる発展につながるポートアイランド

- 大規模な開発空間を活用した様々な拠点整備の可能性

# 名古屋港の将来像

名古屋港から価値を得る人々を大きく3つに分類し、それぞれの視点から見た価値が高い名古屋港の姿を将来像として決めました。

名古屋港を利用してモノを運ぶことにより価値を得る人々の視点

## 将来像 I

世界や地域が求める  
物流サービスを提供する港

～国際経済先導港湾～

- 世界の成長するエリアや様々な国とフレキシブルにつながっている
- 首都圏・近畿圏の機能を代替・補完できる基幹物流の要衝となっている
- 生産性が高く効率的な物流サービスを提供している
- カーボンニュートラルな物流サービスを提供している
- あらゆる人が働きがいを感じて活躍している
- いつでもどんな時でも物流サービスを提供している

# 施策の方向性

将来像の実現に向けて、名古屋港独自のポテンシャルを活かしつつ、具体的な施策を導くための方針をバックカスティングで決めました。

## ＜ 国際競争力の強化 ＞

- 高規格・高性能なコンテナ物流拠点を形成する**
  - 柔軟に利用できる大水深連続直線バース、効率的に作業できる広い荷さばき地、AI、IoT、自動化技術を活用した荷役機械を有するターミナルの形成
- 多機能なロジスティクスハブを形成する**
  - 国内外の基幹物流ネットワークの中核となる物流拠点の形成
- シームレスな物流環境を構築する**
  - 新技術への対応
  - 港内の道路、航路交通の円滑化
  - 複合一貫輸送に対応した物流拠点の形成
- 港湾物流の脱炭素化を推進する**
  - 荷役機械の水素燃料化や電動化
  - 船舶や車両への次世代燃料の供給体制の構築
  - モーダルシフトによる効率化
- 活力と働きがいのある環境を作り出す**
  - 業務を効率化するDXの推進
  - 働く人々が休息できる環境づくり
  - 港の役割、仕事の発信

## ＜ 安全・安心の確保 ＞

- 物流機能を強靱化する**
  - 海上輸送と陸上輸送が一体となった緊急輸送ルートの構築
  - 自然災害、サイバー攻撃や外来生物などへの備えや早期復旧を目指す計画・体制
- 港湾施設を効率的・戦略的に維持管理する**
  - 最新技術を活用した効率的なアセットマネジメントの推進
  - インフラストックの適正化の推進

名古屋港内の事業・産業活動から価値を得る人々の視点

## 将来像 II

地域の成長・進化の基盤となる  
存在価値の高い港

～次世代変革港湾～

- ものづくり産業のカーボンニュートラルに貢献している
- 新たな事業を創出しやすい環境が整っている
- 安全に事業・産業活動を行っている

## ＜ 次世代産業基盤の創出 ＞

- 次世代エネルギー等の大規模拠点を形成する**
  - 水素などの輸入・生産・貯蔵・配送や、二酸化炭素の回収・輸出の拠点の形成
  - 既存産業の機能強化、次世代エネルギー関連産業の立地の促進
- 次世代産業を振興する**
  - 地域が進める産業振興策と連携した港特有のフィールドの活用

## ＜ 安全・安心の確保 ＞

- 官民の連携により防護機能を強化する**
  - 官民の多様な関係者によるハード・ソフト一体となって取り組む協働防護の推進

名古屋港に親しみ、また、共生することで価値を得る人々の視点

## 将来像 III

環境・地域と共生し  
安心で多彩な魅力のある港

～地域社会連携港湾～

- まちづくりと連携した多彩な魅力を創出している
- 周辺の人々や海域・緑地などの自然環境と共生している
- 来訪者及び周辺の人々に安心感を与えている

## ＜ 魅力や海の豊かさの向上 ＞

- “みなと”と“まち”のつながりを意識した魅力ある交流拠点を形成する**
  - 都心にはない魅力をもつ、みなとらしい交流拠点の形成
- 名古屋港固有の魅力を磨き上げる**
  - 景観資源などを活かし、地域の観光施策と連携
- 良好な港湾環境を創出・保全する**
  - 緑地の保全・創出、干潟の保全、浅場の造成、生物共生型港湾構造物の整備、再生可能エネルギーの活用推進

## ＜ 安全・安心の確保 ＞

- 地域と連携した防災対策を推進する**
  - DXの活用
  - オープンスペースの確保
  - 復旧・復興に向けた計画及び体制づくり
  - 必要な情報の積極的な発信

# 空間利用の方向性

3つの将来像に対し、施策の効果を最大化することを重視し、地区の特性等を踏まえながら、施策を展開する主なエリアを定めました。

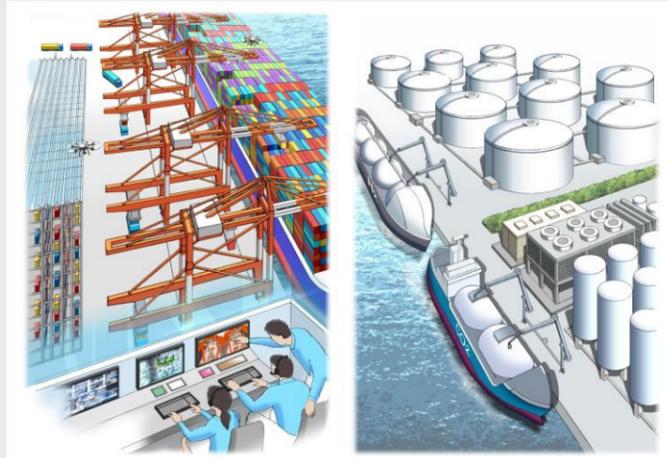
## 西部地区

- 世界とつながるコンテナ物流の中心地であり、広域道路アクセスを活かして、高規格・高性能なコンテナ物流拠点及びそれと一体となった多機能なロジスティクスハブを形成する
- 海上輸送と陸上輸送が円滑につながり、それぞれの新技術に対応したシームレスな物流環境を構築する
- 物流機能との連携を図りながら次世代を担う産業を振興する
- 良好な港湾環境を創出・保全する



## ポートアイランド地区

- 港に残る大規模な開発用地であり、その面積を活かして様々な拠点として活用する
- 南部地区と一体となって、次世代エネルギー等の大規模拠点を形成するほか、西部地区の多機能なロジスティクスハブと連携した高規格・高性能なコンテナ物流拠点を形成する
- 現時点では想定できない新たな需要にも対応する



※各地区の空間利用の方向性をイメージ図として示したものです

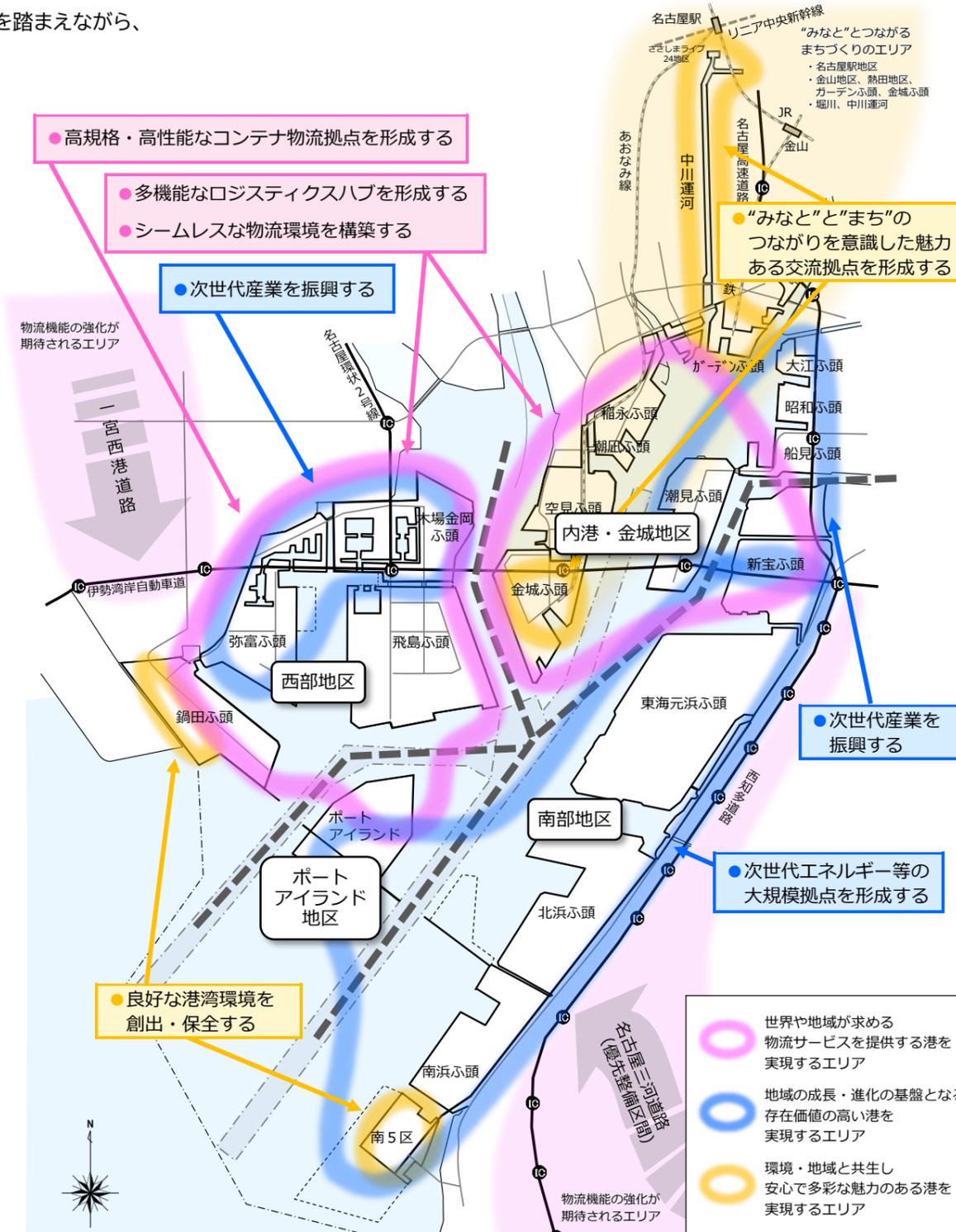
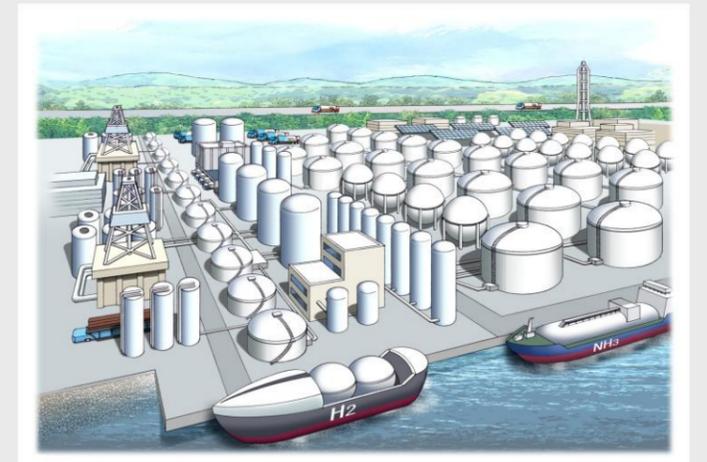
## 内港・金城地区

- 現状の物流、交流、産業機能を活かしたエリアとして活用する
- 完成自動車輸送等の拠点となる多機能なロジスティクスハブを形成するとともに、複合一貫輸送を実現するシームレスな物流環境を構築する
- 物流機能とすみ分けされた魅力ある交流拠点を形成する
- 脱炭素社会や循環型社会などの次世代を担う産業を振興する



## 南部地区

- エネルギーとの関連の深いエリアであり、既存施設等を活用しつつ、ポートアイランドと一体となった次世代エネルギー等の大規模拠点を形成する
- 良好な港湾環境を創出・保全する



### 全域を対象とする施策の方向性

- 港湾物流の脱炭素化を推進する
- 活力と働きがいのある環境を作り出す
- 物流機能を強化する
- 港湾施設を効率的・戦略的に維持管理する

- 次世代産業を振興する
- 官民の連携により防護機能を強化する

- 名古屋港固有の魅力を磨き上げる
- 良好な港湾環境を創出・保全する
- 地域と連携した防災対策を推進する

## 実現に向けて

長期構想の実現に向け、多角的な視点や横断的な視点から、施策と並行して進める取組を定めました。

- 国内外の様々な主体との連携
- 港湾経営の視点
- 迅速かつ柔軟な対応
- DXの推進
- GXの推進
- 具体計画の策定
- イメージづくりの推進

施策を効率的かつ効果的に進めるため、国内外の様々な主体と連携する名古屋港が持続的に発展するため、経営の視点をもって戦略的に施策を進める急激な環境変化に対応していくため、迅速かつ柔軟に対応するあらゆる施策を効率的かつ効果的に進めるため、DXを推進する港湾の競争力を強化するため、GXを推進する事業を着実に進めるため、国の制度等を様々な施策に活かした実行性の高い具体計画を策定する身近で重要なインフラとしてのイメージづくりを推進する

